

平成19年度平塚市史料展

塚越古墳と北金目台地の遺跡

平成19年6月9日（土）～6月17日（日） 特別展示室

約1,600年前、北金目の高台に塚越古墳が築かれました。この古墳には金目川の両岸に広がるいくつかの集落をまとめた長（おさ）が葬られています。そして、ここは彼の治めたどの集落からも眺めることができ、秋には低地に広がる水田の実りを見渡すには絶好の位置でした。

古墳登場前夜、弥生時代の終わり頃には台地全体に集落と方形周溝墓が展開し、時代のピークを迎えます。その繁栄は、今も目にすることの出来る塚越古墳へとつながっていくのです。その後、律令時代まで集落の消長が繰り返され、武士が台頭する中世には、台地周辺の人々が真田城を中心とし、再度まとまってゆくのです。



塚越古墳から大山を望む

今年度、平塚市史料展では塚越古墳とその周辺にスポットを当てて、時代による土地利用の変化や、塚越古墳が作られる背景を探る、という切り口でご覧いただきます。 問い合わせ：平塚市社会教育課文化財保護担当 0463(35)8124